

第二期  
**入校式開催!!**



7月29日(土)に第二期静大FSSの入校式が開催されました。第二期生は静岡県外も含めて42名の高校生が選抜されました。

あいにくの台風接近の影響で、二日間の予定を一日に短縮し、FSSスタートに当たっての“必要最小限”の内容で行われました。はじめに丹沢哲郎副学長のあいさつがあり、つづいて瓜谷眞裕FSS委員長から「研究の目的」「心構え」「学び方」「研究の進め方」について説明を受けました。次に、三浦有紀子先生から研究力養成コースへ進むための「研究提案書の作成」のサブレクチャーを受け、「研究の背景から目的や方法へ」のプロセス、伝えるための「課題名のつけ方」などを学びました。受講生の皆さんは、メモを取りながら真剣に聞き入り三浦先生に質問をして内容の確認をしていました。



昼食時には受講生同士の交流と自己紹介を行いました。



基礎力養成講座1

**金属錯体が作り出す新しい構造と機能**

午後からは、第1回の基礎力養成講座として、理学部化学科の近藤満先生のメインレクチャー「金属錯体が創り出す新しい構造と機能」が開講されました。

「金属錯体」とは、金属イオンと有機化合物から構成される化合物で、それぞれ単体では見られなかった新しい性質や機能が発現します。まだ高校の「化学」を十分学んでいない受講生にとっては難しい内容であったかもしれませんが、受講生の皆さんは積極的に取り組んでいました。

特に、講義終盤での塩化コバルト( $\text{CoCl}_2 \cdot 6\text{H}_2\text{O}$ )と塩化アンモニウム( $\text{NH}_4\text{Cl}$ )の混合物の水溶液が温度変化により変色する実験では、時間を忘れ夢中になっており受講生の皆さんの科学に関する好奇心の強さをうかがい知ることができました。



韮山高等学校 R.U.さんの感想

「金属元素はとても多くの種類があり、その組み合わせは幾多にも存在するとわたしは思う。そのため、新たな金属錯体を探ることや、その働き、応用方法を探る面で未知の部分も多く、様々な可能性を秘めていると考えられる。また金属錯体には電子の出入りが容易である、多様な色が出る、様々な構造をとる、磁性が多様であるなど、多くの性質がある。このようなことから、多面的な視点から研究ができ、新たな発見につながりやすいのではないかと思います」



他の方の感想などはFSSWebサイトで!